

p.2～3 campus

キャンパスアーカイブ
2011年4月～7月の
出来事

p.4 circle

学生たちが
多彩に活躍
クラブ・サークル活動報告

p.5～7 management

平成22年度
事業概要報告

p.8 communication

～× 翔る～
北翔大学 学長 相内 眞子 × 桑名 勇輝
芸術メディア学科
舞台芸術コース3年

p.8 schedule

2011年8～12月の行事予定

「時代が本当に 求めている 大学」の構築へ、 学園一丸で挑戦します。



学校法人浅井学園 理事長

鎌田 昌市

鎌田 昌市(かまだ しょういち)／北海道庁に入職し、行政管理室長、総合企画部長、北海道教育長などを歴任。北海道社会福祉事業団理事長、北海道体育協会副会長など公職多数

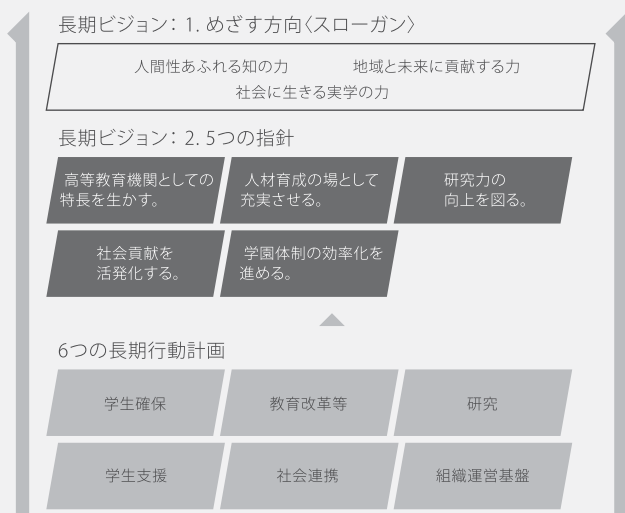
私は3年前から監事として本学園に携わっておりましたが、本年3月に理事長の職を拝命いたしました。これまでも北海道教育長などの職を通じて教育界にかかわってまいりましたが、少子化を迎えた現在、教育機関は新しい運営の道を切り開いていかねばならないと痛感しております。本学園においても、高校生や社会一般の皆さまが今、大学に何を求めているのかを的確に分析し、時代に即したプレゼンテーションを行う必要があると考えています。

本学の歴史は、昭和14年に創立した北海道レスメーカー女学園から始まりました。その後、北海道女子短期大学を経て、平成9年から四年制大学となりました。建学の精神である「自立できる社会人の育成」は素晴らしく、普遍的な力を持っています。それを土台としながら、いつの時代も社会に歓迎される人材育成を追求してきた結果、現在

の学部・学科構成に行き着いているものと思えます。今後時代の変化を捉え、進んでいくためには「内」の力が大切です。教学と経営側の意思疎通を徹底した上で、学園を支援くださる同窓会や保護者の皆様のお力をお借りし、知恵を出し合っていかなければなりません。内外における円滑なコミュニケーションが行われるよう、私がしっかりとリーダーシップを発揮しなければならぬと肝に銘じております。

一般的企業活動とは異なり、大学づくりの成果を実感できるのは10年、20年先ですが、今できることをスピード感を持って実行していくことが重要です。例えば、福祉の分野では、公的サービスだけでは隔々までフォローできないこともあり、新たな福祉・介護ビジネスの芽が生まれています。こうした動きにも対応できるよう、人間福祉学部では来年度から「社会的起業のための履修モデル」をスタートいたします。この件もそうですが、日頃、教職員とぎくばらんに話し合い、外の情報を活かしながらより良い方向性を見いだしていきたいと考えています。そうしたひとつの積み重ねによって、在学生も卒業生も誇りを持つてくれる大学づくりを目指しております。

在学生の皆さんは、何かと厳しいと言われる時代だからこそ、逆境を跳ね返すチャレンジ精神を忘れないでください。近年は各方面から「挑戦する意欲を持った積極性のある人間」が求められております。私も学園関係者全員と一丸となって、本学学生のみなさんと一緒に、前進してまいります。どうぞ今後とも、本学園をご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。



学校法人浅井学園 長期ビジョン

本学園は建学の精神に基づいた教育理念を達成するため、時代の変化を捉えつつ、今後の本学園としての「1. めざす方向」と「2. 5つの指針」を長期ビジョンとして定め、高等教育の本質を追求していくこととする。

1. めざす方向(スローガン)『人間性あふれる知の力、地域と未来に貢献する力、社会に生きる実学の力』

2. 5つの指針
①高等教育機関としての特長を生かす。
総合的な教養教育を基本としながら、実学を重視し、これらの学問研究を通して社会で活躍するために必要な知識・技能はもとより、コミュニケーション能力などの社会対応力を含め実践的で豊かな教養を身につける。
②人材育成の場として充実させる。
人とともに生きていることを自覚し、地域の諸課題に積極的に取り組むとともに、国際社会に目を開き、未来に向けて広い視野からものごとを考え、行動する人材を育成する。
③研究力の向上を図る。
地域に根ざし、教育活動と連携した実践的な研究を推進し、専門性の高い人材育成につなげていく。さらに、その成果を地域に還元する。
④社会貢献を活性化させる。
研究成果を地域と共有し、さらなる地域の活性化に貢献する。そのために、地域との交流を深め優秀な人材の育成に努める。
⑤学園体制の効率化を進める。
学園の役割を教職員一人ひとりが認識し、社会の信頼と評価を得るよう、学園を挙げて取り組む。そのため、学園運営の透明性と情報の公開などに努めるとともに、学園の充実・発展をめざし、教職員と学生がともに前進する。

①学生確保
・アドミッションポリシーと学生募集戦略のさらなる検討を行うとともに、各施策の推進に積極的に取り組む。
②教育改革等
・学生の教育方針を明確化し、既存の学部・学科の再編及び教育課程の再構築を進める。
③研究
・教育活動と連携し、北海道に根ざした研究活動の推進を図る。
・外部資金獲得の方策について検討する。
④学生支援
・キャリア支援の充実と就職の量的・質的向上策を検討し、その達成に努める。
・初年次教育、学生サービス及び学生相談体制のさらなる充実を図る。
・奨学金制度、特待制度、授業料減免制度及び課外活動支援のあり方を検討する。
⑤社会連携
・研究成果の積極的な活用などにより、地域社会との連携・交流をより活性化させる。
・東アジア諸国などの地域を結ぶ国際交流の推進により国際性を涵養する。
・地域から信頼され応援される学園のあり方について検討を加え、実践に努める。
⑥組織運営基盤
・全教職員によるミッション遂行の意識をより高める。
・ITの活用等により効率的な業務を推進する。
・財政基盤強化の方策及び教学組織・事務組織の再構築の検討を進める。

学校法人浅井学園 長期行動計画

「1. めざす方向」と「2. 5つの指針」の長期ビジョンを体現するために「6つの長期行動計画」を定め教職員を挙げて実践していくものとす。

※新中期計画については、既に策定し、平成23年度からスタートしています。

御礼申し上げます

本学同窓会淑萃会 より
1,102,500円のご寄付をいただきました。(平成22年度)
菅野 勲 様より
50,000円のご寄付をいただきました。(平成22年度)
ご支援を賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。

北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。
ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。
ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[募集期間] 平成26年6月まで(常時受け入れさせていただきます)

お問い合わせは企画部企画広報課まで 詳細は本学ホームページ
<http://www.hokusho-u.ac.jp>をご覧ください。

「教育」の理念

「愛と和と英知」

学校法人浅井学園は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて70年の歴史を刻んでまいりました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指しています。

愛 人間の存在とその価値を認め尊敬していきたいと願う温かな心情、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

和 互いの違いを理解したうえで取り結ばれる平和を希求する心、友情、協調性。他者への深い理解と柔軟で寛容な精神の育成。

英知 深遠な道理を探究し、深い知性、実践的な知恵。真の実在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。

「建学」の精神

女性の社会的地位の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた自立できる社会人の育成

本学の建学の精神は、自立の手段を持たず狭い社会に閉じ込められていた女性の、職業的技能と教養を身につけることを目指すという当時としては「時代を先取りする精神」をもっていました。社会は大きく変わり、今日、女性に限らず一人一人が人間として幅広い教養を身につけ、自律的な社会人を育成していくことが求められています。本学は、時代を先取りする精神性を現在に生かし、新たな共生社会の創造をめざし、現代人にふさわしい専門的実践能力を身につけた「時代を切り開く人材」の育成をめざします。

2011
April, May, June
and July

キャンパス・アーカイブ
2011年4月～7月の

出来事

Campus Archive

4月 Campus Archive / April

平成23年度入学式

4月6日、午前10時より北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部の入学式が、浅井記念館にて執り行われました。今年の入学学生総計は650名です。北翔大学の相内眞子学長、そして北翔大学短期大学部の齊藤徹学長による式辞に晴れやかな表情で聞き入っていた新入生たち。その全員が本学で大いに活躍し、成長して社会へ巣立つていくことを願っています。



[1年次入学生]

・大学院	9名	・生涯スポーツ学部	213名
・人間福祉学部	90名	・短期大学部	214名
・生涯学習システム学部	97名		

[編入学生]

・人間福祉学部	3名	・生涯スポーツ学部	6名
・生涯学習システム学部	18名		



日本高等教育評価機構の
大学認証評価認定について



北翔大学は、(財)日本高等教育評価機構による「平成22年度大学機関別認証評価」の結果、3月25日付けで当該機構が定める大学評価基準を満たしているとの認定を受けました。認定業務。

定期期間は、平成22(2010)年4月1日から平成29(2017)年3月31日までとなります。本評価によって、次の11の基準すべてを満たしていることが認定されました。①建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的②教育研究組織③教育課程④学生⑤教員⑥職員⑦管理運営⑧財務⑨教育研究環境⑩社会連携⑪社会的責任。



優秀な活動をたたえる
学生表彰授与式

生涯学習システム学部では、文部科学省の選定を受け、昨年12月から「就業力育成支援事業」に取り組み、いまその一環として保育士資格取得を目指す全6回の講座を開講(4月1日、2日、7日、9日、14日、16日)。学習コーチング学科の学生20名以上が受講しました。前期の授業期間と重なったこともありましたが、放課後の遅い時間や土

曜日であっても、学生たちは意欲的に受講していました。最終日に実施したアンケートでは、「とても良い経験でした。8月まで頑張つて勉強したいと思います!」「長かったけれど、すごく楽しく受けられました!」「教えてくれたことを踏まえ、テキストを熟読して試験に臨みます!」とモチベーションの高い感想が多く寄せられました。この講座の実施により、同学科の魅力である幼稚園、小学校、特別支援学校の1種教員免許状取得のほか、保育士資格を取得できるチャンスも生まれ、進路選択の可能性が大きく広がりました。

生涯学習システム学部では、文部科学省の選定を受け、昨年12月から「就業力育成支援事業」に取り組み、いまその一環として保育士資格取得を目指す全6回の講座を開講(4月1日、2日、7日、9日、14日、16日)。学習コーチング学科の学生20名以上が受講しました。前期の授業期間と重なったこともありましたが、放課後の遅い時間や土曜日であっても、学生たちは意欲的に受講していました。最終日に実施したアンケートでは、「とても良い経験でした。8月まで頑張つて勉強したいと思います!」「長かったけれど、すごく楽しく受けられました!」「教えてくれたことを踏まえ、テキストを熟読して試験に臨みます!」とモチベーションの高い感想が多く寄せられました。この講座の実施により、同学科の魅力である幼稚園、小学校、特別支援学校の1種教員免許状取得のほか、保育士資格を取得できるチャンスも生まれ、進路選択の可能性が大きく広がりました。



保育士を目指すための講座に
学生20名以上が参加



彰授与式を行いました。4月の授与式では、相内眞子大学学長から人ひとりに表彰状が授与され、同窓会からもお祝いの品が贈られました。受賞者からの挨拶では、表彰を励みとして「層努力したい」と力強い声が聞かれました。これからは、本学では、学生を応援・サポートしていきます。

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に選定



北方圏生涯スポーツ研究センター(スポル)が、本年度の文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請していたプロジェクト「北海道型スポーツ振興システムの構築」(研究代表者・川初清典教授)が選定されました。

研究期間は平成25年度までの3年間で、総事業費は6173万円です。本学からの選定は、平成13年度選定の北方圏学術情報センタープロジェクト、平成16年度選定の北方圏生涯スポーツ研究センタープロジェクトに次いで3件目となります。

生涯学習システム学部ニュース

芸術メディア学科



音楽コース3年の白戸達也さんが、レナード・バーンスタインの提唱で始まった国際教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」(PMF)のオーディションに見事合格し、世界各地から選抜される打楽器奏者4席の一つを獲得しました。白戸さんは7月3日から8月5日まで、芸術監督ファビオ・ルイジとアラン・アルティノグルのもと、PMFオーケストラの一員として札幌キタラールのほか東京、大阪での演奏会に出演しました。

学習コーチング学科



7月13日、幼稚園と小学校で実習を行った4年生が「教育実習報告会」を開催。代表者5名が、次年度実習予定の2年生と3年生の前で体験談を報告しました。実習中に受けた指導の教々や反省点、あるいは子どもたちとの出会いや後輩へのメッセージなどを各自が熱っぽく語り、ひと回り成長した姿が頼もしく感じられました。多くの後輩にも先輩からの熱意が伝わり、爽やかな風の流れる実習報告会となりました。

人間福祉学部ニュース

多様な就業形態に対応する教育へ

人間福祉学部では、社会福祉士や介護福祉士を基礎資格とした就業形態の多様化に対応する「社会的起業履修モデル」を来年度から開始します。これまでは社会福祉施設などへの就職が主な選択枝でしたが、例えば「NPO法人を独立開業して介護保険法や障害者自立支援法の指定事業者となる」、「社会福祉士資格をもとに社会福祉施設などに就職した後、介護支援専門員の資格を取得して独立社会福祉事務所を開業する」、「地域の高齢者が集うコミュニティレストランや便利屋などのコミュニティビジネスを始める」などの新しい就業スタイルも生まれ始めています。

そこでスタートするのが、現行の教育課程をもとにNPOの創り方を学び、インターンシップなども経験できる「社会的起業履修モデル」です。この新しい取り組みが、本学部の魅力の一つになることを期待しています。

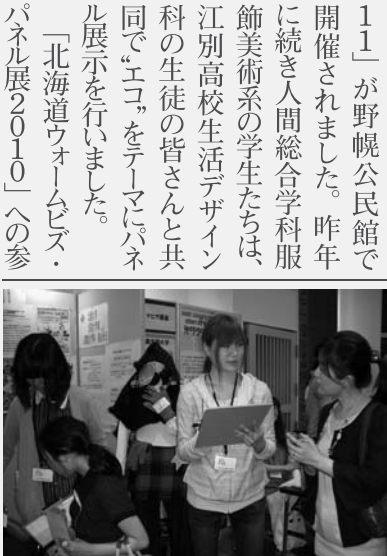


6月 Campus Archive / June

えべつ環境広場で学生が
防寒エコグッズなどを紹介



6月の環境月間に合わせて6月18・19日、えべつ地球温暖化対策地域協議会主催の「第21回えべつ環境広場2011」が野幌公民館で開催されました。昨年に続き人間総合学科服飾美術系の学生たちは、江別高校生活デザイン科の生徒の皆さんと共同で「エコ」をテーマにパネル展を行いました。



初開催のFD・SD／ICT
交流サロンで活発に意見交換



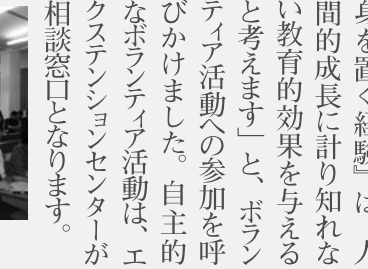
6月28日、「第1回FD・SD／ICT交流サロン」が開催されました。テーマは「授業アンケートから見た教室の学習環境について」。アンケートから得られた教室の物理的な不具合などを確認し、改善点を探りました。また、松澤FD支援委員長のプレゼンをもとにした活発な意見交換もあり、参加者の「大学が少しでも良くなれば」という強い思いが感じられました。



震災ボランティアの体験を
4人の学生が報告



「震災ボランティア報告会」が6月22日に開催されました。人間福祉学部部長・林教授の司会により、2つのボランティア活動について4名から報告がありました。1組目は、生涯学習システム学部芸術メディア学科3年の桑名さん。5月の連休中に1人で福島へ駆けつけ、ボランティア活動に参加しました。そして2組目は、人間福祉学部福祉心理学科3年の中脇さんと、地域福祉学科の角田さん、不破さん。5月下旬に特定非営利活動法人「ねおす」による岩手県での活動に参加した5名のうちの3名です。



7月 Campus Archive / July

高校生に本学の魅力を伝える
オープンキャンパスを開催



7月23・24日、今年度2回目の「オープンキャンパス」が開催されました。キャンパスが開放され、真夏の暑い2日間、のべ400名を超える参加者が集まったキャンパスは、熱い雰囲気になりました。プログラムは、入試制度の説明、学科ごとの個別相談、体験授業、学食体験やキャンパスやクラブ・サークルの見学など充実の内容。本学のコミュニケーションコピー「笑顔のために、学ぶ。」のテーマのもと、運営は学生サークル「Team P.A.L.C.（パル・シー）」が主体となつて行われました。学生と高校生がふれあいながら、本学の魅力と学生生活の楽しさを来場者に伝える貴重な機会となりました。



ひらめき☆ときめきサイエンス
大学の研究を児童・生徒に発信

7月23・24日、日本学術振興会の委託事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」ようこそ大学の研究室へ」を、オープンキャンパスの体験授業の一つとして開催しました。今回の講師は人間福祉学部福祉心理学科の今野洋子教授で、テーマは「保健室の先生（養育運動）」。今年も6月14・16日に実施しました。7回目となる今回も、酪農学園大学・短期大学部、札幌学院大学、北海道情報大学と連携。JA道央と北海道米販売拡大委員会のご協力により、江別産のお米「瑞穂のしずく」を提供していただきました。



7月23・24日、日本学術振興会の委託事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」ようこそ大学の研究室へ」を、オープンキャンパスの体験授業の一つとして開催しました。今回の講師は人間福祉学部福祉心理学科の今野洋子教授で、テーマは「保健室の先生（養育運動）」。今年も6月14・16日に実施しました。7回目となる今回も、酪農学園大学・短期大学部、札幌学院大学、北海道情報大学と連携。JA道央と北海道米販売拡大委員会のご協力により、江別産のお米「瑞穂のしずく」を提供していただきました。

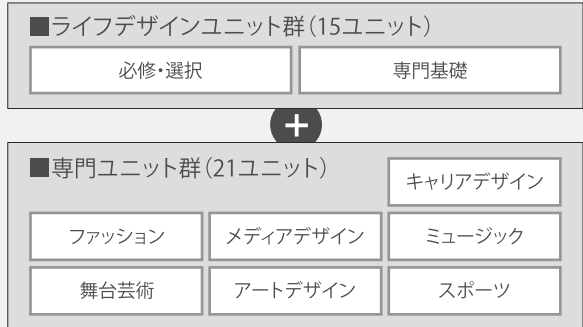
人間総合学科はライフデザイン学科へ

人間総合学科は、文部科学省の短期大学「地域総合科学科」構想に則り平成15年度に開設し、平成23年度の入学生をもって9年目を迎えました。この間、地域との連携による多彩な特色ある授業や行事を展開し、多くの卒業生を社会に送り出してきました。

今回、本構想の目的を継承しつつ、時代の要請に合致した教育内容の一層の充実を図るため、学生が自己の将来設計（ライフデザイン）を認識し、社会人基礎力を身につけ、目指す職業につながる資格を取得して、自己のライフデザインと将来の進路をイメージしながら学べるよう、「ユニット」の組み替えを中心に教育課程の見直しを行いました。これに伴い、学科の教育内容を的確に表す学科名として、「人間総合学科」を来年度より「ライフデザイン学科」に名称変更します。

本学科は、教養教育、キャリア教育を通して社会人基礎力を身につけ、キャリアデザイン、ファッション・舞台アート、健康・子どもスポーツに関わる専門的知識・技能をライフデザインを描きながら学び、地域・社会で活躍する人材の育成を目指します。

ライフデザインユニット群をベースとして、
7つの専門ユニット群で各自の専門性を養成。



※ユニットとは関係の深い科目を数個ずつまとめたかたまりのことです。

学 生たちに毎回好評の
ICCOIN朝食週間を開催



健康な体づくり、そして健康な精神の発達のためには、毎日の規則正しい食生活が大切です。そこで、朝食を100円で提供して大好評を得ている「食生活改善運動（ICCOIN）朝食週間」を、今年も6月14・16日に実施しました。7回目となる今回も、酪農学園大学・短期大学部、札幌学院大学、北海道情報大学と連携。JA道央と北海道米販売拡大委員会のご協力により、江別産のお米「瑞穂のしずく」を提供していただきました。

長期履修学生一回生 [こども学科]



こども学科は、2009年度に、長期履修学生制度導入を決定しました。その後、2010年度の入試を経て、この春に10名（3年7名、4年3名）の一回生が入学しています。

長期履修学生の内訳は、働きながら学ぶ目的の者が8名で、勉強・アルバイト・部活動に取り組む学生が1名、部活動の練習時間を確保している学生が1名です。

いずれの学生も、自分の置かれている状況をきちんと把握しており、目的意識が高いため、授業や学年行事に積極的に参加しています。ただし、教育実習と保育実習は卒業年次になるために、道のりは長いのですが、その間、訪問介護員養成研修2級課程やボランティア活動などに挑戦する意気込みがあります。このことから、実践・体験による力量を高めて、3年生・4年生になってから、後輩のよき指導者、よき模範となることを期待しているところです。

生涯スポーツ学部ニュース

地域と連携し、学生が活躍しています！

生涯スポーツ学部スポーツ教育学科では、様々な地域連携・貢献活動を実施しています。2年生の地域貢献科目である「地域支援実習」では、さっぽろ健康スポーツ財団と連携し、「北海道を歩こう（6/5開催）」、「札幌ソーデーマーチ（6/18・19開催）」、「6時間ルーマラン（7/3日開催）」などのスポーツイベントの運営スタッフとして協力しました。上田知行准教授ゼミを中心として「あかびら・地域まるごと元気アッププログラム」の企画・運営を昨年度から継続して実施し、赤平市の体力測定、運動指導などを実践しています。

竹田唯史・増山尚美教授ゼミでは江別市教育委員会と連携し「文京台小学校体力向上プロジェクト」として、毎週火曜日・金曜日の8時5分から8時25分まで「朝の運動プログラム」をこども学科学生と協力してスポーツ教育学科の学生たちが指導しています。これらの実習・体験を通し、学生たちは現場で必要な実践力を身につけています。



The Results 2011

2011 クラブ、サークル、学生達の活躍

Club, Circle and Other Activities

陸上競技部

日本学生個人選手権
五十嵐友、佐藤慎也
が入賞!!



五十嵐友・女子100m7位入賞
佐藤慎也・男子110mハードル8位入賞

の前哨戦として、自信のつく大会となりました。出場選手は次のとおりです。

○男子110mハードル
佐藤慎也(健康プラ
ンニング学科4年)

○女子100m

奥塚みなみ(健康プ
ランニング学科4年)、五
十嵐友(健康プラン
ニング学科4年)

○女子200m

○奥塚みなみ

○女子400m

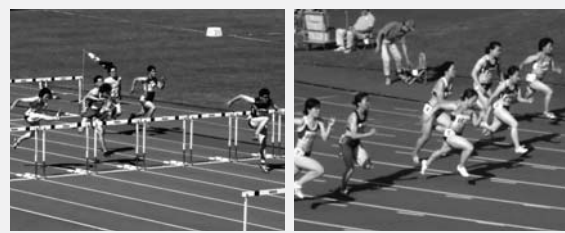
／剣持明那(人間総合
学科スポーツ科学系2
年)

※健康プランニング学科
は、現・スポーツ教育学
科です。

川県平塚市総合公園陸
上競技場にて、学生個
人の全国大会である

「日本学生陸上競技個
人選手権大会」が行わ
れ、本学陸上競技部か
らは4名が出場を果たし
ました。

その結果、女子10
0mでは五十嵐友が7
位(決勝12秒25)、男
子110mハードルで佐
藤慎也が8位(決勝14
秒41/シーズンベスト)
入賞を達成しました。



2011年度北海道選手権/佐藤慎也(写真左から2人目)、五十嵐友(写真右から2人目)

学生自治会

「学生自治会による
「東北地方太平洋
沖地震」募金報告

平成23年3月18日に
執り行われた学位記授
与式の式典会場および
終了後の祝賀会会場な
どにおいて、本学学生自
治会が東北地方太平洋
沖地震により被害に遭
われた方のために募金

活動を行いました。集
まった義援金28万626
7円は、5月12日付で日
本赤十字社へ寄託した
と学生自治会から報告
がありました。募金さ
れた卒業生および保護
者の皆さまに對し、学生
自治会から感謝の言葉
をいただいています。皆
さまの善意が、被災地
の復興の手助けになるこ
とを期待いたします。

硬式野球部

「ハワイ・アイランド・
ムーバーズ来校！」

硬式野球部では7月
17・23日の7日間、本学
野球場にハワイアイラン
ドムーバーズを迎えて、
合同練習や交流試合な
どを実施しました。

ムーバーズは、米国ハワ
イ州の大学生を中心に、
米国本土学生も含む選
手で編成された選抜
チーム。本学硬式野球部
との交流事業は、今年で
5回目となりました。
交流試合の結果は、次
のとおりです。

7/18(月・祝)	北翔大学	● 0-3	○ ムーバーズ
7/19(火)	北翔大学	● 1-3	○ ムーバーズ
7/21(木)	北翔大学	● 5-6	○ ムーバーズ



大学祭実行委員会

「出店やライブで
学生が「丸」に！」

7月31日、「北翔祭」
が開催されました。

今回のテーマは
「challenge」。

これは、学生が丸とな
って大学祭を盛り上げ、
地域の皆さまとひとつに
なりたい、さらには震災
復興に向けて日本全体
がひとつになれること
を願ったテーマです。

そのような思いを共
有しながら、各サークル

および各学年の有志に
よる出店、学科企画
(作品展・演劇・ファッ
ションショー)や、アーテ
ィ



ストによるライブなど、
魅力あるイベントを数多
く開催しました。

また、ライブは「HO
KUSHOW SUM
MER RIDDIM」と
題して浅井記念館で行
われました。スペシャルゲ
ストには、ドラマの主題
歌やCMソングをリリース

し、現在人気急上昇中
のJAMOSAが登場し、
例年以上の盛り上がり
を見せました。

最後は毎年恒例の打
ち上げ花火でフィナーレ
を迎えました。

DOREME OPEN CAMPUS 同時開催
9/23(金・祝) 北海道ドレスメーカー学院 2011
ア・ラ・モード・コレクション
HOKKAIDO DRESS MAKER COLLEGE 2011 a la MODE COLLECTION
— root ハッピーのモト —

1st.11:30 2nd.15:00

30分前開場/無料公演

会場/北方圏学術情報センター・ポルトホール

ドレメ生が提案する最新トレンドファッションショー! キッズファッションも登場!



学生達のオリジナルショップ

DOREME SHOP
OPEN! 9/16(金)・25(日)

4丁目プラザ7F・4プラホール 期間限定オープン!

学生ブログ更新中! 詳しくはドレメHPでチェック

学生オリジナルブランド
「Dear」の商品も
コレクションで発表!



北海道ドレスメーカー学院

<http://www.doreme.ac.jp/>



現在のラーニング・コモンズ

この頃図書館でジュースを飲んでいても注意されなくなった。それもそのはず、この4月から1階入口近くのエリアでは



1966年当時の図書室

入れ替わる新着図書をチェックしたり、学生ボランティアや職員による企画展示で隠れた蔵書を発見したり、いろいろな機能で発想も広がります。実はこのエリア、短期大学時代の1966年、現在の場所に校舎が移転した際「図書室」

【学校法人の概要】

設置学校 学部・学科等の名称及び学生・生徒数 *平成22年5月1日現在(単位:人)						
学校名・学部・学科名等	入学定員	入学人数	編入定員	卒業人数	収容定員	在学生数
北翔大学大学院	16	19	—	17	32	43
人間福祉学研究科	10	11	—	7	20	23
生涯学習学研究科	6	8	—	10	12	20
北翔大学	530	410	190	408	2,330	1,776
人間福祉学部	210	106	60	142	960	528
生涯学習システム学部	160	102	130	266	1,050	849
生涯スポーツ学部	160	202	—	—	320	399
北翔大学短期大学部	350	220	—	190	640	438
人間総合学科	150	74	—	85	300	171
こども学科	140	146	—	105	280	267
専攻科	60	—	—	—	60	0
北海道ドレスメーカー学院	170	81	—	83	320	162
法人合計	1,066	730	190	698	3,322	2,419

役員数 *平成22年5月1日現在(単位:人)			
	常勤	非常勤	計
理事	6	4	10
監事	0	3	3

教員・職員数 *平成22年5月1日現在(単位:人)										
	法人部門	北翔大学				北翔大学短期大学部				法人合計
		人間福祉学部	生涯学習システム学部	生涯スポーツ学部	計	こども学科	人間総合学科	専攻科	計	
学校長	0	1	0	0	1	0	0	0	1	2
副学校長	0	0	0	0	1	0	1	1	1	3
教授(論)	0	16	20	13	49	7	6	13	7	69
准教授	0	10	10	7	27	3	4	7	0	34
講師	0	10	3	1	14	3	1	4	0	18
助手	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
本務教員計	0	38	34	21	93	13	12	25	9	127
兼任講師	0	—	—	—	208	—	—	65	31	304
本務職員	3	18	30	14	62	9	6	15	4	84

基礎教育セミナーのテキストに「心と身体ケア」についての内容を盛り込み学生への周知を強化した。健康講話の開催や健康診断結果に基づく事後指導など健康管理の支援を行った。

学生確保に関する事項

- オープンキャンパスは計画通り6回開催した。年間参加者数は昨年比マイナス143名の1308名であった。高校訪問は高校訪問チームにより285校、学科での訪問374校の計659校に実施した。
- 北翔ガジンズを6回発行した。加えて、教員として活躍する卒業生や教員採用検査合格状況の特集した冊子を発行した。
- 平成23年度入学人数は、目標の700名に対し614名で、昨年比マイナス16名という結果となった。
- 北海道ドレスメーカー学院では、計画通りオープンキャンパスを毎月開催し目標を超える357名の参加者であった。高校生参加型のコレクションの実施、範囲を広げた広報活動を実施した。

財務内容の改善に関する事項

- 経費の抑制
- 部門毎に執行状況を把握し、適切な経費執行に努めた。経費の削減に努めるとともに、予算管理委員会でも期中での予算執行状況の確認、期末までの執行見込みを把握し予算統制に努めた。
- 中期経営改善計画に則った予算編成方針を策定し、平成23年度予算の編成を行った。
- 人事及び人件費
- 教員編成、職員編成について退職者等の後任は不補充の原則に則り適正化に努めた。
- 人件費は、期末手当の20%削減、役員手当の50%削減を継続した。

点検評価、情報提供等に関する事項

- 点検評価
- 大学の第三者評価に係る点検評価報告書の提出及び受審により、平成23年3月に全ての評価基準を満たし適格との認定を受けた。
- 情報公開の推進
- 点検評価報告書並びに評価結果をHPに掲載し公表したほか、財務状況はじめ学校教育法施行規則の改正に伴い、平成23年4月から公開が求められる大学状況についてもHP上で公開した。

詳細につきましてはホームページをご覧ください。
<http://www.hokusho-u.ac.jp>

ラーニング・コモンズから始まる みんなの図書館活用術

この頃図書館でジュースを飲んでいても注意されなくなった。それもそのはず、この4月から1階入口近くのエリアでは

安定した経営及び魅力ある教育の提供、地域に貢献できる教育機関を目指し、創意工夫による効果的な学生の学習支援、学生生活支援に努めるとともに研究に裏付けられた教育力向上に努め、概ね計画通りに取り組みが実施できた。

学生支援に関する事項

- 1 学生支援
- ゼミ担任、ガイダンス、ティーチャー、クラス担任等による少人数指導を通じてきめ細やかな履修指導、生活指導を行い、退学者の減少に務めた。

研究等に関する事項

- 大学院臨床心理学専攻及び臨床心理センターでは、教員及び大学院修士生の研修会を精力的に開催した。
- 北方圏学術情報センターでは、市民講座等を通じて研究成果の公表に努め、センターの活性化が図られた。

運営管理の改善及び効率化に関する事項

- 平成24年度からの短期大学部人間総合学科の改編案を検討した。
- 平成25年度からの大学改組の検討を行うとともに、平成24年度70人体制となる事務局組織の検討を開始し、いずれも新中期計画の中で合理化案を提示した。

点検評価、情報提供等に関する事項

- 点検評価
- 大学の第三者評価に係る点検評価報告書の提出及び受審により、平成23年3月に全ての評価基準を満たし適格との認定を受けた。
- 情報公開の推進
- 点検評価報告書並びに評価結果をHPに掲載し公表したほか、財務状況はじめ学校教育法施行規則の改正に伴い、平成23年4月から公開が求められる大学状況についてもHP上で公開した。

詳細につきましてはホームページをご覧ください。
<http://www.hokusho-u.ac.jp>

Hokusho University Library

授業では時々、ゲームやダンス、映画を観たりして非常に楽しいです。カナダに住む人々は優しく、いつも笑顔で私たちのことを助けてくれます。異文化にふれることは私にとって良い人生経験となっています。



左から一番目が栗井瑞貴さん

カナダに来て最初の頃は、何もかもがわからず英語も伝わらなくてたくさん困ったこともありましたが、でも困ること以上に楽しいことや知らなかった文化がたくさんありました。5月は私の誕生日があり、みんなでお祝いしてくれて、授業でもパーティをしてくれてとてもうれしかったです。

伝統料理の授業などを学んでいます。今は夏休みに入りましたが、休み明けに卒業作品として観光の演劇をする事になり、クラスの友達と作品制作に取り組んでいて、充実した日々を送っています。



左から二番目が最上まいゆさん

カナダに来て最初の頃は、何もかもがわからず英語も伝わらなくてたくさん困ったこともありましたが、でも困ること以上に楽しいことや知らなかった文化がたくさんありました。5月は私の誕生日があり、みんなでお祝いしてくれて、授業でもパーティをしてくれてとてもうれしかったです。

韓国・カナダ協定校派遣 交換留学生からの近況報告

韓国・カナダ協定校派遣 交換留学生からの近況報告

[平成22年度決算概要]

資金収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

資金収支計算書とは、その年度の法人の諸活動に対応する収入及び支出の全て、並びにその年度における支払資金の流れを明らかにするためのものです。そのため、次年度の収入となる前受金収入や施設設備に関する支出及び借入金返済支出等、資産・負債に係るものについても計上されます。

平成22年度の資金収入は合計72億2千2百万円となり、前年度に比べ2億7千3百万円増加しました。学生生徒等納付金収入は減少しましたが、私立大学等経常費補助金が全額交付されたことによる増加、及び前年度繰越資金の増加によるものです。

資金支出では、人件費、施設設備関係等の経費支出が抑制されました。次年度に繰り越す支払資金は43億4千7百万円となり、前年度より3億4百万円増加となりました。

収入の部 (単位:千円)				支出の部 (単位:千円)			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	2,615,140	2,684,944	△69,804	人件費支出	1,595,773	1,571,449	24,324
手数料収入	22,580	22,171	409	教育研究経費支出	800,018	717,067	82,951
寄付金収入	0	1,153	△1,153	管理経費支出	243,210	232,089	11,121
補助金収入	392,262	396,218	△3,956	借入金等利息支出	28,350	28,336	14
資産運用収入	32,200	29,122	3,078	借入金等返済支出	184,941	184,940	1
資産売却収入	0	33	△33	施設関係支出	45,350	36,538	8,812
事業収入	40,540	46,627	△6,087	設備関係支出	71,235	67,213	4,022
雑収入	19,330	28,410	△9,080	資産運用支出	0	0	0
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	114,074	114,562	△488
前受金収入	674,670	652,185	22,485	〔予備費〕	(51,000)	0	0
その他の収入	111,418	100,271	11,147	資金支出調整勘定	△83,277	△76,761	△6,516
資金収入調整勘定	△739,906	△781,826	41,920	次年度繰越支払資金	4,211,348	4,346,663	△135,315
前年度繰越支払資金	4,042,788	4,042,788		支出の部合計	7,211,022	7,222,096	△11,074
収入の部合計	7,211,022	7,222,096	△11,074				

※単位を千円としているため、本表で計算をした場合、合計等が一致しない場合があります。

貸借対照表 (平成23年3月31日)

決算時(年度末)における資産・負債・基本金及び収支差額を把握するもので、法人の財政状態を表しています。

平成22年度末の資産は177億9千8百万円であり、前年度末に比べ9千6百万円減少しています。減価償却により固定資産が減少し、現預金の増加により流動資産が増加しました。負債は、長期借入金返済等により2億8千3百万円減少しました。

総資産から総負債を差し引いた正味財産は149億9千6百万円となり、前年度に比べ1億8千7百万円の増加となりました。

資産の部 (単位:千円)				負債・基本金・消費収支差額の部 (単位:千円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	13,397,979	13,786,332	△388,353	固定負債	1,868,956	2,064,174	△195,218
有形固定資産	12,342,611	12,737,672	△395,061	流動負債	933,365	1,020,961	△87,596
その他の固定資産	1,055,368	1,048,660	6,708	負債の部合計	2,802,321	3,085,135	△282,814
流動資産	4,400,157	4,107,429	292,728	基本金の部合計	16,375,985	16,271,812	104,173
資産の部合計	17,798,136	17,893,761	△95,625	消費収支差額の部合計	△1,380,170	△1,463,186	83,016
※単位を千円としているため、本表で計算をした場合、合計等が一致しない場合があります。				負債・基本金・消費収支差額の部合計	17,798,136	17,893,761	△95,625

消費収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

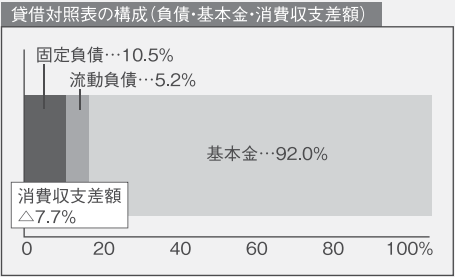
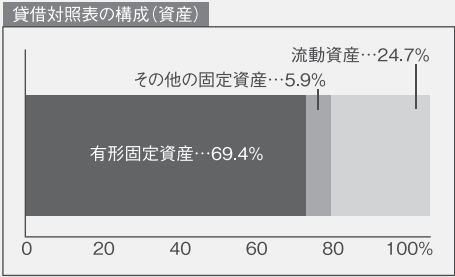
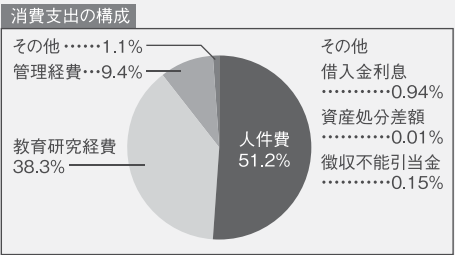
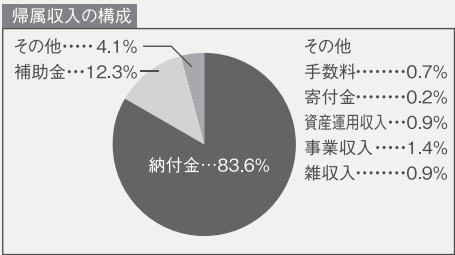
消費収支計算書とは、法人の経営状況を把握するためのものであり、「基本金」という学校法人会計独自のものを除くと企業会計の損益計算書と類似しています。そのため、資産・負債等に伴う収支は除かれる一方、退職給与引当金繰入額、減価償却額、資産処分差額、現物寄付金等、資金の収支を伴わない金額も計上されます。

平成22年度の帰属収入は32億1千3百万円であり、前年度に比べ1億6千1百万円の減少となりました。これは資金収支計算書同様、学生生徒等納付金収入の減少によるものです。基本金組入額1億4百万円により、31億8百万円が消費収入となります。消費収入では前年度に比べ2億6千5百万円の減少となりました。

消費支出の合計は30億2千5百万円となり、前年度に比べ1億8千3百万円の減少となりました。資金支出と同様、経費の圧縮ができたことによるものです。

消費収入から消費支出を差し引いた差額は8千3百万円の収入超過となりました。
平成23年度からスタートしている新中期計画に基づき、今後も教育研究、財政を含めた経営改善に努めます。

消費収入の部 (単位:千円)				消費支出の部 (単位:千円)			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,615,140	2,684,944	△69,804	人件費	1,573,111	1,548,787	24,324
手数料	22,580	22,171	409	教育研究経費	1,242,871	1,158,233	84,638
寄付金	0	5,040	△5,040	管理経費	305,729	285,337	20,392
補助金	392,262	396,218	△3,956	借入金等利息	28,350	28,336	14
資産運用収入	32,200	29,122	3,078	資産処分差額	1,000	263	737
事業収入	40,540	46,627	△6,087	徴収不能引当金繰入額	7,500	4,387	3,113
雑収入	60,380	28,410	31,970	〔予備費〕	(51,000)	0	0
帰属収入合計	3,163,102	3,212,533	△49,431	消費支出の部合計	3,158,561	3,025,343	133,218
基本金組入額合計	△131,922	△104,173	△27,749	当年度消費収入超過額	△127,381	83,017	
消費収入の部合計	3,031,180	3,108,360	△77,180	前年度繰越消費収入超過額	△1,463,186	△1,463,186	
※単位を千円としているため、本表で計算をした場合、合計等が一致しない場合があります。				翌年度繰越消費収入超過額	△1,590,567	△1,380,169	



資金収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,615,140,000	2,684,944,010	△69,804,010
手数料収入	22,580,000	22,171,173	408,827
寄付金収入	0	1,152,500	△1,152,500
補助金収入	392,262,000	396,218,465	△3,956,465
国庫補助金収入	387,838,000	387,838,000	0
地方公共団体補助金収入	4,424,000	8,380,465	△3,956,465
資産運用収入	32,200,000	29,122,001	3,077,999
資産売却収入	0	33,087	△33,087
事業収入	40,540,000	46,626,845	△6,086,845
雑収入	19,330,000	28,410,339	△9,080,339
前受金収入	674,670,000	652,184,968	22,485,032
その他の収入	111,417,831	100,271,297	11,146,534
資金収入調整勘定	△739,905,935	△781,826,411	41,920,476
前年度 繰越 支払資金	4,042,788,063	4,042,788,063	
収入の部 合計	7,211,021,959	7,222,096,337	△11,074,378

支出の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,595,773,498	1,571,448,721	24,324,777
教員人件費支出	1,066,620,000	1,048,430,027	18,189,973
職員人件費支出	488,234,000	482,099,196	6,134,804
その他の人件費支出	40,919,498	40,919,498	0
教育研究経費支出	880,017,502	717,067,215	82,950,287
管理経費支出	243,210,000	232,089,671	11,120,329
借入金等利息支出	28,350,000	28,336,317	13,683
借入金等返済支出	184,941,000	184,940,000	1,000
施設関係支出	45,350,000	36,537,843	8,812,157
設備関係支出	71,235,000	66,962,363	4,272,637
資産運用支出	0	250	△250
その他の支出	114,073,747	114,811,863	△738,116
資金支出調整勘定	△83,276,772	△76,761,071	△6,515,701
次年度 繰越 支払資金	4,211,347,984	4,346,663,165	△135,315,181
支出の部 合計	7,211,021,959	7,222,096,337	△11,074,378

消費収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

消費収入の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,615,140,000	2,684,944,010	△69,804,010
授業料	1,820,620,000	1,878,190,210	△57,570,210
その他の学生生徒等納付金	794,520,000	806,753,800	△12,233,800
手数料	22,580,000	22,171,173	408,827
寄付金	0	5,040,049	△5,040,049
補助金	392,262,000	396,218,465	△3,956,465
国庫補助金	387,838,000	387,838,000	0
地方公共団体補助金	4,424,000	8,380,465	△3,956,465
資産運用収入	32,200,000	29,122,001	3,077,999
事業収入	40,540,000	46,626,845	△6,086,845
雑収入	60,380,000	28,410,339	31,969,661
帰属収入 合計	3,163,102,000	3,212,532,882	△49,430,882
基本金組入額 合計	△131,922,000	△104,173,187	△27,748,813
消費収入の部 合計	3,031,180,000	3,108,359,695	△77,179,695

消費支出の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,573,111,298	1,548,786,521	24,324,777
教員人件費	1,066,620,000	1,048,430,027	18,189,973
職員人件費	488,234,000	482,099,196	6,134,804
その他の人件費	18,257,298	18,257,298	0
教育研究経費	1,242,871,191	1,158,232,501	84,638,690
管理経費	305,728,511	285,337,182	20,391,329
借入金等利息	28,350,000	28,336,317	13,683
資産処分差額	1,000,000	263,215	736,785
徴収不能引当金繰入額	7,500,000	4,387,260	3,112,740
消費支出の部 合計	3,158,561,000	3,025,342,996	133,218,004
当年度 消費収入超過額	0	83,016,699	
当年度 消費支出超過額	127,381,000	0	
前年度 繰越消費支出超過額	1,463,185,960	1,463,185,960	
翌年度 繰越消費支出超過額	1,590,566,960	1,380,169,261	

貸借対照表 (平成22年3月31日)

■資産の部 (単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	13,397,979,682	13,786,332,303	△388,352,621
有形固定資産	12,342,611,414	12,737,672,212	△395,060,798
土地	2,833,333,933	2,833,333,933	0
建物	8,019,295,451	8,319,101,150	△299,805,699
その他の有形固定資産	1,489,982,030	1,585,237,129	△95,255,099
その他の固定資産	1,055,368,268	1,048,660,091	6,708,177
流動資産	4,400,156,808	4,107,428,786	292,728,022
現金預金	4,346,663,165	4,042,788,063	303,875,102
その他の流動資産	53,493,643	64,640,723	△11,147,080
資産の部 合計	17,798,136,490	17,893,761,089	△95,624,599

■基本金の部 (単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	16,043,984,953	15,930,811,766	104,173,187
第3号基本金	30,000,000	30,000,000	0
第4号基本金	311,000,000	311,000,000	0
基本金の部 合計	16,375,984,953	16,271,811,766	104,173,187

■負債の部 (単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,868,955,509	2,064,174,601	△195,219,092
長期借入金	1,500,380,000	1,663,320,000	△162,940,000
その他の固定負債	368,575,509	400,854,601	△32,279,092
流動負債	933,365,289	1,020,960,682	△87,595,393
短期借入金	162,940,000	184,940,000	△22,000,000
その他の流動負債	770,425,289	836,020,682	△65,595,393
負債の部 合計	2,802,320,798	3,085,135,283	△282,814,485

■消費収支差額の部 (単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越 消費支出超過額	1,380,169,261	1,463,185,960	△83,016,699
消費収支差額の部 合計	△1,380,169,261	△1,463,185,960	83,016,699

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部 合計	17,798,136,490	17,893,761,089	△95,624,599

財産目録

(単位:円)

区 分			金 額
資 産	基 本 財 産	土地 131,096.89㎡	2,833,333,933
		建物 71,923.67㎡	8,019,295,451
		教具・校具・備品 10,642点	512,631,648
		図書 192,477冊	732,956,518
		その他	261,078,288
	運 用 財 産	現金・預金	4,346,663,165
		その他	1,092,177,487
	収 益 事 業 用 財 産		30,011,779
	総 資 産 額		17,828,148,269

(単位:円)

区 分			金 額
負 債	固 定 負 債	長期借入金	1,500,380,000
		その他	368,575,509
	流 動 負 債	短期借入金	162,940,000
		その他	770,425,289
	収 益 事 業 用 負 債		19,074,427
	負 債 総 額		2,821,395,225

正 味 財 産	15,006,753,044
---------	----------------

教職員人事のご案内 (平成23年3月31日～8月31日)

■退 職／教育職員 (平成23年3月31日付)

人間福祉学部	教 授	稲田 尚史
人間福祉学部	准教授	忍 正人
生涯学習システム学部	教 授	佐藤 満雄
生涯学習システム学部	教 授	西村 光弘
生涯学習システム学部	准教授	大林 のり子
生涯スポーツ学部	准教授	石澤 伸弘
人間福祉学研究科	助 手	中里 真由子

■退 職／教育職員 (平成23年5月31日付)

人間福祉学部	教 授	J.J.フランク
--------	-----	----------

■新 任／教育職員 (平成23年4月1日付)

生涯学習システム学部	教 授	島津 彰
生涯学習システム学部	教 授	松村 憲治
生涯スポーツ学部	教 授	川初 清典
人間福祉学研究科	助 手	広瀬 慎一

■新 任／研究科長・専攻主任・学部長・学科長 (平成23年4月1日付)

人間福祉学研究科長	佐藤 至英
人間福祉学部長	林 恭裕
生涯スポーツ学部長	小田嶋 政子
地域福祉学科長	本間 美幸
医療福祉学科長	石橋 達勇
福祉心理学科長・臨床心理学専攻主任	風間 雅江
スポーツ教育学科長	竹田 唯史

■昇 任／教育職員 (平成23年4月1日付)

人間福祉学部	教 授	J.J.フランク
生涯スポーツ学部	教 授	小田 史郎
人間福祉学部	准教授	尾形 良子
人間福祉学部	准教授	吉田 修大

人間福祉学部	准教授	黒澤 直子
生涯学習システム学部	准教授	浅井 貴也
生涯学習システム学部	准教授	伏見 千悦子

■移 籍／教育職員 (平成23年4月1日付)

生涯スポーツ学部	教 授	奥寺 仁子
生涯スポーツ学部	教 授	澤田 一義
生涯スポーツ学部	教 授	水野 信太郎
生涯スポーツ学部	准教授	和 史朗
生涯スポーツ学部	准教授	山本 敬三

■委 嘱／教育職員 (平成23年4月1日付)

人間福祉学研究科	客員教授	村瀬 嘉代子
生涯学習学研究科	客員教授	奥岡 茂雄
生涯学習学研究科	客員教授	塩見 邦雄

■新 任／教育研究機関等 (平成23年4月1日付)

教育支援総合センター長	粥川 道子
教育支援総合センター副センター長・学習支援オフィス長	小杉 直美
学生生活支援オフィス長	西浦 功
FD支援オフィス長	松澤 衛
北方圏学術情報センター長	林 亨
北方圏学術情報センター副センター長	西山 薫
北方圏生涯スポーツ研究センター長	川初 清典
北方圏生涯スポーツ研究センター副センター長	小田 史郎
図書館長	伊藤 和幸
図書館副館長	加藤 満
保健センター長	丸岡 里香
保健センター副センター長	小坂 守孝
体育管理センター長	永谷 稔
体育管理センター副センター長	佐藤 晋也
エクステンションセンター長	久末 久美子

エクステンションセンター副センター長	浅井 貴也
アドミッションセンター長	佐々木 浩子
アドミッションセンター副センター長	佐藤 慧
キャリア支援センター長	梶 晴美
キャリア支援センター副センター長	澤田 悦子
教職センター副センター長	藤井 由美子
臨床心理センター長	佐藤 至英
臨床心理センター副センター長	風間 雅江

■退 職／事務職員 (平成23年3月31日付)

総務部	部 長	尾崎 俊法
学習支援オフィス		成田 貴代
図書館		富樫 ふゆ子
福祉実習支援センター		市村 美代子

■退 職／事務職員 (平成23年8月31日付)

福祉実習支援センター	田ヶ谷 昌子
------------	--------

■兼 職／事務職員 (平成23年4月1日付)

総務部	部 長	芝田 浩二
-----	-----	-------

■異 動／事務職員 (平成23年4月1日付)

総務部	副部長	藤林 俊彦
図書館		丸山 由希子

■再雇用／事務職員 (平成23年4月1日付)

総務部付北海道レスメーカー学院	事務長	尾崎 俊法
-----------------	-----	-------

■任期更新／事務職員 (平成23年5月28日付)

学校法人 浅井学園	参 与	澤井 將美
-----------	-----	-------

■採 用／事務職員 (平成23年5月30日付)

学校法人 浅井学園	専務理事	釜野 義博
-----------	------	-------

しました。その点でいえば、潜在的に興味を持っている人に情報が確実に届くよう、掲示板や学内放送以外にも、もっと伝達手段があつてもいいような気がします。それによつて、例えば今回の震災ボランティア報告会にも、さらに多くの学生が集まってくれたかもしれません。もちろん、社会に出てからは、そのような受け身の姿勢では通用しないと思います。学生時代はまずいろんな情報を受け取ってみることが大事なかなと感じています。

相内 確かに学生のころは情報を受信する態度が洗練されていないので、大学側の発信力が重要ですね。ご指摘を受け止めて、改善策を模索したいです。発信力と受信力が揃つてこそコミュニケーション能力であり、それが両者間で良好に機能すれば、そこに絆が生れます。大学と学生の間の絆を強め、より良い空間と時間を生み出していきたいものです。それにしても、お話を聞いてみると、桑名さんは人と交わるこ

と感じます。桑名 はい。自分と違う考えに触れ、新しい発見があるので、今後も舞台の勉強やボランティアを通してコミュニケーション能力を磨いていきたいですね。相内 ボランティアとは「自発的」という意味で、現代社会が求めている重要な人間性でもあります。夏休みに福島に行く際は、大学としてお手伝いできることもあると思うので、気軽に相談してくださいね。桑名 ありがとうございます。

～× 翔る～ 「一とともに創る、学園の明日」



北翔大学 学長
相内 眞子

芸術メディア学科
舞台芸術コース3年

桑名 勇輝
岩見沢東高校 出身

相内 桑名さんは本学の学生の中ではいち早く震災ボランティアに向かったんですね。ご苦労さまでした。なぜ行つてみようと決断したんですか？桑名 地震当日、津波などの非日常的な映像を見た瞬間から行くつもりでした。やはり動いている人や子育てをしている人より、僕たち学生のほうが身軽ですから。ただし、何も情報がないまま行つてしまうのは逆に迷惑になると思う、自分なりにいろいろ調べる時間を設けて、ゴールデンウィーク

期間中に福島へと向かいました。相内 復興のお手伝いをしながら、現地の人の話を聞き、多くの物事を目標に、多くを学びたいと思います。桑名 僕は舞台芸術を学んでいるので、被災地で舞台をやりたいと思っています。夏休み期間中、学科の仲間や学外の劇団の方々と福島へ行くつもりです。相内 素晴らしい試みですね。成功を祈っています。ところで桑名さんは

専門学校から本学へ編入されたんですね。桑名 はい。専門学校では役者の勉強をしていました。編入学してからは舞台芸術に関するあらゆる分野、さらには舞台を超えて幅広いアートも学ぶことができ、とても充実しています。相内 逆に、こうすれば本学はもつと人に喜びや希望を提供できる環境が整うのではないかと思います。桑名 行動する前には情報が必要ですね。それは今回のボランティアでも実感

2011 年 8 月～12 月の行事予定

2011.8August～12December Event schedule			
		共 通 行 事 予 定	学 科 別 行 事 予 定
8月	26日(金) 27日(土)	第1期編入学試験 学内公開 第1期編入学試験	22日(月) こども学科 2年次保育実習(～8/28)
9月	4日(日) 5日(月) 5日(月) 10日(土) 18日(日) 22日(木) 26日(月) 30日(金)	保護者懇談会(本学会場) 創立記念日 第9回レッドディアカレッジ訪問研修(～9/13) 保護者懇談会(旭川・釧路・苫小牧・青森会場) オープンキャンパス 後学期オリエンテーション 後学期講義開始 前学期学位記授与式	5日(月) 20日(火) 地域福祉学科 介護実習I(～10/4) こども学科 1年次施設見学(～22日)
10月	8日(土) 23日(日) 29日(土) 30日(日)	インターンシップ報告会 介護支援専門員実務研修受講試験(在学生立入禁止(体育施設以外)) 第1期大学院入学試験 学内公開 第1期大学院入学試験	22日(土) 生涯学習学研究所 修士論文中間発表会
11月	8日(火) 19日(土) 20日(日)	第17回培花女子大学訪問研修(～11/14) 推薦入試、社会人・帰国子女特別選抜入学試験学内公開(在学生立入禁止) 推薦入試、社会人・帰国子女特別選抜入学試験(在学生立入禁止)	5日(土) 26日(土) 人間総合学科 えべつFUROSHIKIフェスティバル2011(～2/12) 学習コーチング学科 コーチング研究会
12月	2日(金) 3日(土) 24日(土)	第2期編入学試験 学内公開 第2期編入学試験 冬季休業(～1/10)	11日(日) こども学科 学外発表会(美術)(～17日)

保護者懇談会のご案内

本学では、学生支援や進路・就職支援などの状況や、取り組みなどについてご説明する「平成23年度保護者懇談会」を9月4日(日)・10日(土)に道内外の5会場で開催いたします。担当教員にどのようなことでもご質問・ご相談いただける個別面談も実施いたしますので、ぜひご参加ください。



地区	日時	会場
本学	9月4日(日) 13:00～16:00	北翔大学カレッジホールPAL 江別市文京台23番地
旭川	9月10日(土) 13:00～16:00	旭川ターミナルホテル 旭川市宮下通7丁目
釧路		釧路プリンスホテル 釧路市幸町7-1
苫小牧		苫小牧グランドホテルニュー王子 苫小牧市表町4-3-1
青森		青森グランドホテル 青森市新町1-1-23

同窓会から

淑 萃 会 ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動 振 興 会

振興会では事業の一環として、学生がゼミやクラブ・サークル活動で移動の際に使用している小型バス2台をリニューアルしました。

デザインは卒業生でグラフィックデザイナーの佐々木大輔さんによるもの。街で見かけるかもしれませんので、そのときは手を振ってくださいね。



東日本大震災に伴う学生ボランティア活動について

北翔大学学長 相内 眞子
北翔大学短期大学部学長 齊藤 徹

3月11日、東日本を巨大地震と津波が襲い、未曾有の被害を日本社会にもたらしました。被災された方々にあらためて心からお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

東日本大震災を体験した私たちは、逃れようのない歴史の証人となりました。その被害規模の大きさや影響の深刻さを、現地に向かい、被災を受けた方々の心に寄り添う支援活動への学生参加をサポートすることは、社会に貢献する人材の育成を重視する本学の教育方針にかなうものです。

本学では、既に被災地支援にボランティアとして参加した学生諸君の報告会を開催し、支援活動への参加をサポートする本学の取組みについてご紹介しておりますが、今後も、学生諸君の自発的な参加意欲と熱意を尊重し、修学上の配慮を行う予定です。

被災地の復興には、長い年月と、多くの人たちの持続的で温かい支援が必要です。北海道の私たちに何ができるか、北翔大学と北翔大学短期大学部は、学生諸君と共に考え、行動することを願っています。

被災された方々への強い共感を基に、復興の支援活動に是非参加したいという学生諸君もおられると思います。被災地のボランティア活動に関する情報提供や参加申し込みの受付・手続等は、エクステンションセンターで行っています。大学は、学生諸君のボランティア活動を様々な側面から十分支援できるよう取り組んでいます。詳しくはエクステンションセンターにご相談下さい。

新TVCM、オンエア中！



北翔大学・北翔大学短期大学部のCMが、UHB「めざましテレビ第2部」にてオンエアされています。放送時間は、毎週月曜日と水曜日の7時30分ごろで、期間は来年3月末までの1年間となっています。

本学が今年度から用いているコミュニケーションコピー「笑顔のために、学ぶ。」を、福祉、アート、教育、スポーツという学びの分野ごとに映像化しました。最初に登場する人物が、学生たちのさまざまな学びを通して笑顔になっていくというストーリーを表現しています。

なお、CMならびにCMの世界観を拡張したプロモーションビデオは、本学ホームページでも閲覧可能です。



TV-CM
[福祉編]



TV-CM
[アート編]



TV-CM
[教育編]



TV-CM
[スポーツ編]